

国際ワークショップ

「徽州の籍帳から見た中国 近世の地方統治と有力戸」

日時：2011年9月22日(木) 午後1時～5時30分

会場：京都大学人文科学研究所 本館 セミナー室2

「趣旨説明——中国籍帳研究における欒先生の貢献」

岩井茂樹 (京都大学)

「明清戸籍制度的演變與其所造文書」

欒成顕氏 (中国社会科学院歴史研究所)

「安徽省博物館蔵『万曆27都5図黄冊底籍』に関する知見」

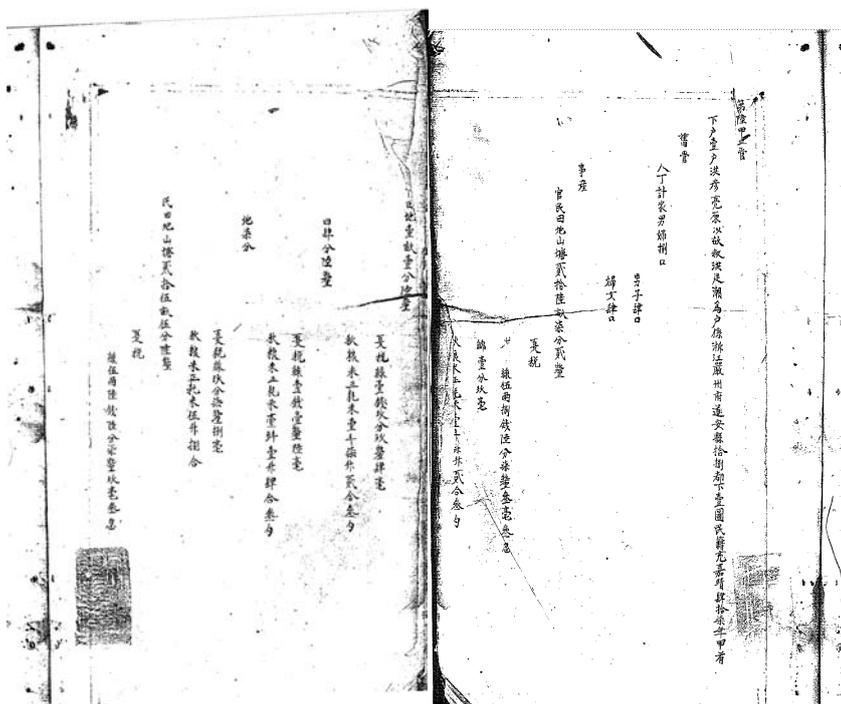
伊藤正彦氏 (熊本大学)

「率東『程氏置産簿』について」

大田由紀夫氏 (鹿児島大学)

コメント

伍躍氏 (大阪経済法科大学)



徽州地域には明代以降の『賦役黄冊』や『魚鱗図冊』など、戸にたいする支配と税・役科派とのための籍帳が伝存している。また、同地域の有力戸のなかには、こうした籍帳と関係する私的な簿冊を作成し、保管していた者があることが知られている。このたび、明代の籍帳研究において画期的な研究成果をあげてこられた欒成顕氏のほか、この分野において稀見の文書資料に分析を加えつつある伊藤正彦氏と大田由紀夫氏をお招きして、官府による統治の実態に迫るとともに、有力戸の資産形成や経営の具体例を分析していただく。この作業を通じて、統治の制度とそれへの対応という観点から徽州地域社会の特質について議論を深めてることがこの国際ワークショップの目的である。